

実践報告 (Report)

# 幼稚園における長時間預かり保育の実施に関する研究

Study about implementation of extended-hours childcare at a kindergarten

早川 雅子\*・石橋 尚子\*\*・飯田 恵\*\*\*

HAYAKAWA, Masako\* ISHIBASHI, Naoko\*\* IIDA, Megumi\*\*\*

## 摘 要

本稿は、椋山女学園大学附属幼稚園の「預かり保育」に関する実施状況を整理・報告するとともに、その過程で実施した3つの調査（①国内2幼稚園への訪問調査、②椋山幼稚園「預かり保育」担当教諭10名へのヒアリング調査、③椋山幼稚園「預かり保育」利用保護者対象のアンケート調査）の結果を踏まえて、平成30（2018）年度以降の椋山幼稚園における「預かり保育」の在り方を検討するものである。研究を通して、椋山幼稚園の「預かり保育」の方向性が確認され、これまでの成果と課題が明らかとなった。利用園児の急増にともなう保育環境の悪化への対応策として、平成30年度は新たに会員制を導入する予定である。今後とも、質量ともに充実した「長時間預かり保育」の実施を目指したい。

キーワード：幼稚園、長時間預かり保育、長期休業期間保育、早朝保育、夕刻保育

Key words : kindergarten, extended-hours childcare, long closure period childcare, early morning childcare, evening childcare

## 1. 幼稚園における預かり保育

### (1) 「預かり保育」とは

文部科学省（2006）によれば、『預かり保育』とは、保護者の希望に応じて、4時間を標準とする幼稚園の教育時間の前後や土曜・日曜、長期休業期間中に、幼稚園において教育活動を行うもの」であり、その推進にあたって「職業などはもっているが、子どもを幼稚園に通わせたいという保護者に対する必要な支援策であるとともに、家庭や地域の教育力を補完し、その再生・向上につながるという意義を持っている（文部科学省大臣官房政策課評価室，2008）」ことが指摘されている。「預かり保育」は、従来から地域の実態や保護者の要請に応じて、個々の幼稚園による子育て支援サービスとして実施されてきたが、平成12（2000）年施行の幼稚園教育要領において、初めて「教育課程に係る教育時間の終了後に行う教育活動」として明記され

\* 椋山女学園大学附属幼稚園 預かり保育担当教諭 \*\* 椋山女学園大学附属幼稚園 園長/教育学部 教授

\*\*\* 椋山女学園大学附属幼稚園 教頭

た。さらに平成20（2008）年改訂の幼稚園教育要領において、適切な教育活動となるよう具体的な留意事項が示され、平成29（2017）年告示の新幼稚園教育要領においても、その位置づけは堅持されるとともに、更なる推進が目指されている。

幼稚園における「預かり保育」が求められる背景には、少子化や都市化に伴い、幼児が同年代や異年齢の友達と遊ぶ場・機会が減少していることや、核家族化や両親就労家庭の増加による託児ニーズの高まりがあると言われている。さらに近年は、政府の少子化対策の中で、保育園に入所できない待機児童解消策の一環として推進されてきた側面もあり、厚生労働省（2017）の「子育て安心プラン」の6つの支援パッケージの中で、「幼稚園における2歳児の受け入れや預かり保育の推進」が明記されるまでに至っている。「預かり保育」のニーズは高まるばかりである。

## (2) 「預かり保育」実施園の状況

受け入れ側の幼稚園の状況について、文部科学省（2017）の「平成28年度幼児教育実態調査（平成29年10月）」によれば、平成28年6月1日現在、「預かり保育」を実施している幼稚園は全体の85.2%（公立園：66.0%，私立園：96.5%）で、多くの幼稚園で実施されている。「預かり保育」を行う条件としては、「保護者の就労」「きょうだいの学校行事」「近親者の介護等」が主な条件である。「預かり保育」受け入れ幼児数は、1日当たり全体で18.7人/園（公立園：12.9人/園，私立園：20.8人/園）。通常期間の実施日は週5日が86.5%で、土曜日実施している園は少ない。長期休業中の「預かり保育」実施率は81.3%である。このような状況下で、椙山女学園大学附属幼稚園（以下：椙山幼稚園）は、これまでどのように「預かり保育」に取り組んできたのであろうか。そして今後、どのような運営・展開を目指していけばよいのであろうか。

## (3) 本研究の目的

そこで本研究では、椙山幼稚園における「預かり保育」の実施状況を報告するとともに、その過程で実施した3つの調査から得られた知見を勘案し、平成30年度以降の椙山幼稚園における「預かり保育」実施計画案を提案して、質量ともに充実した「長時間預かり保育」の実施を目指したい。実施した3つの調査は、①「預かり保育」の実施方法・保育内容等についての資料収集を目的とした国内2幼稚園への訪問調査、②椙山幼稚園「預かり保育」の問題点・課題等を明らかにするための担当教諭10名へのヒアリング調査、並びに③利用保護者対象のアンケート調査である。調査期間はいずれも平成28（2016）年度中であった。

## 2. 椙山幼稚園における「預かり保育」実施状況

### (1) 椙山幼稚園における「預かり保育」の経緯

① 平成14（2002）年度～平成23（2011）年度：椙山女学園百年史（2007）によれば、椙山幼稚園において、保護者のニーズ調査を経て、「預かり保育」が開始されたのは平成14（2002）年4月であった。「くまちゃんクラス」の名称で開始された「預かり

保育」は、担当教諭1名（パートタイマー）で通常保育終了後2時間の保育を保障するもので、料金はおやつ代を含めて一律500円であった。「くまちゃんクラス」の利用方法は、学期の初めに保護者にチケットを購入してもらい、当日通常クラスの担任教諭にチケットを渡す「チケット制」であった。利用申し込みの期限は、基本的には前日までとされていたが、急用等による当日の電話申し込みにも柔軟に対応していたようである。平成15（2003）年度には、担当教諭を2名（パートタイマー）に増員して、より目の届く保育が目指された。利用園児数は徐々に増加し、20名程の園児が異年齢クラスで遊ぶ楽しさを味わえる場になっていった。

② 平成23（2011）年度～平成25（2013）年度：担当教諭2名による2時間保育の「くまちゃんクラス」は、その後平成23（2011）年度に、担当教諭3名（全員パートタイマー）による通常保育終了から17時までの3時間保育へと延長された。利用方法も、従来のチケット制から、各教室設置の申込用紙に前日までに、保護者が直接園児名を記入する方法へと変更された。翌々年の平成25（2013）年度は、園舎建て替えに伴う旧附属小学校舎への移転期間であったが、「預かり保育」は継続実施された。筆者の早川は、この年から「預かり保育」担当教諭の1名（パートタイマー）として着任し、30名弱の園児の保育にあたることになった。担当教諭がパート勤務者のみであることから責任の所在が不明確な点もあり、「くまちゃんクラス」の保育を中心に進める立場の担当教諭の存在が必要であると感じた。

③ 平成26（2014）年度：当年4月の新園舎の開設にともない、保育体制と利用方法に大きな改善が図られた。これまで通常保育終了後のみであった預かり保育時間帯を、早朝（7:45～9:00）と午後（14:00～18:00）の二部構成とし、夏季休業期間等の長期休業期間、土曜日、代休日も開園することで、大幅な保育時間の拡張が行われた。担当教諭は、通常期間は早朝2名・午後3名の5名体制、長期休業期間や代休日は2名、利用園児が少ない土曜日は1名であった。この年、筆者の石橋が園長として着任（園長名：横尾）し、早川は期限付専任タイプの教諭へと身分変更され、「預かり保育」主担当教諭として「くまちゃんクラス」の保育に責任を担う立場となった。初めての早朝保育（あさくま）利用園児は20名程、午後保育（午後くま）利用園児は50名程で、前年より約20名増となった。これは、今日求められている幼稚園における子育て支援の充実、「預かり保育」の推進に沿うものであった。

④ 平成27（2015）年度：当年4月に、椋山女学園大学附属保育園（0～2歳児用乳児専門保育園、以下：椋山保育園）が開園された。翌年の保育園からの卒園児受け入れを可能とする「預かり保育」の体制づくりを進めることとなった。「預かり保育」時間や担当教諭の体制に変更はなかったが、5月の「連絡アプリ」の導入により、利用保護者の利便性向上と担当教諭の事務手続き負担の削減を図った。システムエラーや保護者の入力ミス等はなかなか解消されないが、利用園児の掌握がかなりスムーズになったように思える。この年の利用園児数は、通常期間の早朝28名程、午後64名程であった（図1, 2）。夏季休業期間の利用者は35名程であった。

⑤ 平成28（2016）年度以降：いよいよ梶山保育園からの卒園児を受け入れるにあたり、預かり保育時間を早朝（7:30～9:00）・午後（14:00～19:30）ともに延長して、保育園と同様の12時間保育を保障している。このような保育時間の拡張によって、両親就労家庭の入園児が増加したこともあり、「預かり保育」利用園児数は予想以上に増加（図1、2）した。そこで平成29（2017）年より、早朝3名、午後5名の指導体制をとっているが、当年11月時点で、通常期間の早朝45名程、午後90名程の園児が利用していて、おやつの時間等には、椅子に座れない園児が預かり保育用の部屋（多目的室とランチルーム）からあふれ出してしまう日も少なくない現状である。

このような経緯を経て、梶山幼稚園の「預かり保育」は時間的にはかなり充実したものとなっている。しかしながら、前述した文部科学省（2017）調べの「預かり保育」受け入れ幼児数（1日当たり全体：18.7人/園、私立園：20.8人/園）をはるかに上回

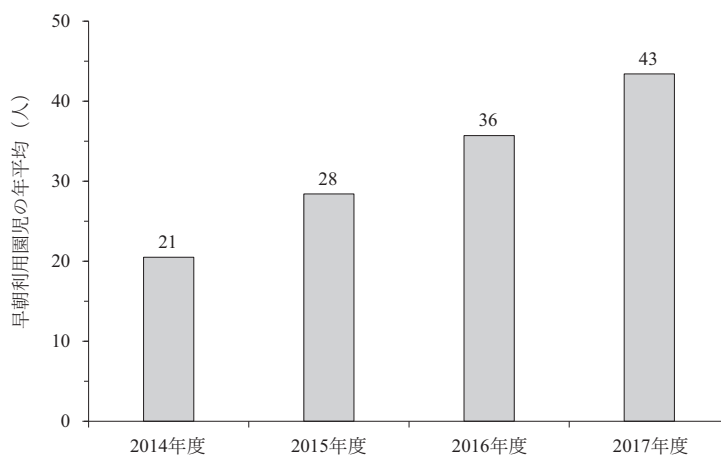


図1. 梶山女学園大学附属幼稚園における「預かり保育（早朝）」利用園児の年度別平均人数

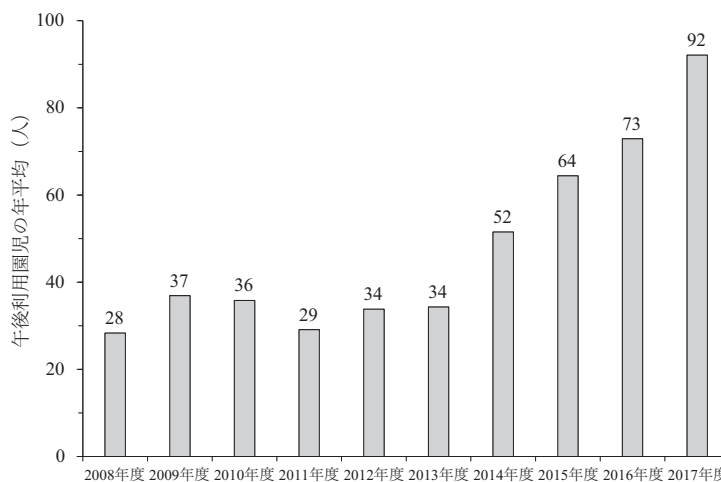


図2. 梶山女学園大学附属幼稚園における「預かり保育（午後）」利用園児の年度別平均人数

る利用園児数と、幼稚園としてのコアの保育時間5時間（9:00～14:00）よりも長い預かり保育時間7時間の保育内容の充実については、継続課題として残されている。

## (2) 梶山幼稚園における「預かり保育」の内容と制度

①「預かり保育」のねらいと重点：梶山幼稚園の教育（2017）によれば、梶山幼稚園の「預かり保育」では、「異年齢の友達との関わり合いを楽しみながら安心して過ごす」ことを主なねらいとし、平成26（2014）年の自園給食・自園おやつ開始に伴って、「おやつを通して食への興味を持ち、食べることを楽しむ（食育）」ことも、保育のねらいとして位置づけている。ねらいを達成するために、保育の中で重点的に取り組んでいることは、「戸外や室内の遊びをバランスよく取り入れ、クラスを超えて色々な友だちとの関わり合いが持てるようにする」「手作りのおやつに興味を持たせ、アレルギー児に配慮して楽しく味わうことができるようにする」「新しい環境に慣れ、安心・安全に過ごすことができるようにする」の3点である。

②「預かり保育」の一日の流れと留意点について：通常期間午後と長期休業期間（夏季）の保育の流れは、表1と2に示す通りである。「預かり保育」で使用する教材としては、園児がくつろいだ雰囲気の中でゆったりと過ごすことができるように、また異年齢保育による人間関係に配慮し、一人でも楽しめることを基準に、おもまごとセット、木製レール、レゴ、塗り絵、パズル、あやとり等を用意している。雨天時など戸外で遊べない時は、室内遊具（ネット遊具）やホールでの集団遊びなどを実施し、ストレスの緩和を図っている。当日の保育内容については、表1、2に示す内容を基本として、利用園児数・園行事・天候等を考慮し、その日の「預かり保育」担当教諭間で話し合っている。

特に長期休業期間の「預かり保育」においては、園児の健康状態を常に把握し、無理なく安全に過ごせるように配慮している。また、通常期間の「預かり保育」では経験できない、梶山女学園大学附属小学校のアフタースクールへの参加と小学生との交流、梶山女学園大学教育学部や人間関係学部の学生との遊びの会等を行っている。長期休業期間のほとんどを利用する園児も多いため、クッキング（例えば：夏季休業中

表1. 通常期間の「預かり保育」一日の流れ

開始時間	活用内容（使用場所）
14:00	各保育室から多目的・ランチルームへ移動
14:15	排泄・手洗い・消毒→おやつ
14:45	紙芝居を見る
15:00	好きな遊び：園庭 or 室内（おもまごと・ブロック・塗り絵・パズル・マグフォーマー等） ホールでの集団ゲーム遊び、ネット遊具遊び
17:30	片付け
18:05	排泄・手洗い・消毒→夕刻補食
18:20	保育園へ行き合同保育
19:30	預かり保育終了

表2. 長期休業期間（夏季）の「預かり保育」一日の流れ：梶山幼稚園

開始時間	活用内容（使用場所）
7:30	順次登園→多目的・ランチルームで好きな遊び（ままごと・ブロック・塗り絵・パズル等）
9:30	片付け→朝の挨拶・出席確認・季節の歌
9:45	牛乳飲用→給食準備→プールの支度
10:30	プール or 水遊び：雨天時はネット遊具・ホール遊び ※ 日によってはクッキング等のイベント
11:30	給食
12:30	年少児のみ午睡，年中児・年長児は「えほんの部屋」or 外遊び
14:00	年少目覚め→排泄
14:30	おやつ
15:30	外遊び：雨天時は室内のネット遊具遊び・ホールでのゲーム遊び
16:45	室内遊び（廃材制作・レゴブロック・井形ブロック・塗り絵・パズル・オセロ・おままごと等）
18:05	夕刻補食
18:20	保育園へ行き合同保育
19:30	預かり保育終了

のスイカ割りやゼリー作り，冬季休業中のクリスマス会でのホットケーキ作り，新年のぜんざいでの鏡開きやゲーム大会など，年齢に応じてかわり楽しむことができる行事も計画・実施している。

③「預かり保育」担当教諭について：「預かり保育」担当教諭全員が幼稚園教員免許取得者であり，幼稚園や保育所での勤務経験を有している。平成29（2017）年11月現在，「預かり保育」担当教諭7名のシフト制で保育を行っているが，欠員補充がなされておらず，学生アルバイトやクラス担任教諭が早朝（月10回程）入ることで，通常期間の必要人員を補っている。長期休業期間についても，クラス担任教諭が当番形式で保育に携わる日を設けている。両期間において，梶山女学園大学教育学部生の保育ボランティアに支えられている面も大きい。

「預かり保育」担当教諭の研修としては，全員に4月当初のAED講習とエピペン講習を実施している。その他の研修への参加も保障したいが，利用園児数に教諭数が追いつかず，一部の参加に止めている。また，全員参加による担当者会議を定期的に行うことができないことから，必要な連絡事項等は業務日誌で確認したり，連絡ノートを活用し，極力漏れがないように心掛けている。しかしながら，「預かり保育」利用園児数やその顔触れは保育当日に確定するものであり，かつまた園やPTAの行事等で使用する部屋の移動を余儀なくされることもあり，保育を組み立てる難しさを常に抱えている。

④「預かり保育」のニーズについて：「預かり保育」利用の理由は，主に「両親の就労」「園児自身の希望」「保護者の急用への対応：母親の体調不良やきょうだいの学校行事への参加等」「保育時間終了から課外教室開始までの時間調整」の4点である。

保護者の就労支援や家庭生活への支援だけではなく、園児の放課後支援としての利用もみられる。

⑤「預かり保育」の現行制度と利用料金等について：表3と表4に示す通りである。表4に示すような「預かり保育」の必要性が高い園児については、「特別預かり」の名称で19:30までの保育を保障している。

表3. 平成28・29年度「預かり保育」の種類と金額

(※は特別認定園児のみ利用可能)

預かり保育の種類	時間	金額
早朝	7:30～9:00	スポット(1回) 200円 月極 2,500円
通常午後	保育終了後3時間	スポット(1回) 800円 おやつ代込 月極 10,000円 (保育料8,500円おやつ代1,500円) ※名古屋市に住民票がある方は補助金による2,000円の減免がありますので、8,000円徴収
※ 特別 (平日)	①7:30～9:00および 保育終了後～18:00  ②7:30～9:00および 保育終了後～19:30	①月額 14,000円 (保育料12,500円おやつ代1,500円) ※名古屋市に住民票がある方は補助金による2,000円の減免がありますので、12,000円徴収 ②月額 22,000円 (保育料19,200円おやつ代2,800円) ※名古屋市に住民票がある方は補助金による2,000円の減免がありますので、20,000円徴収
お迎え延長通常児	17:00～18:00	30分 150円
お迎え延長特別認定児	18:00～19:30	30分 200円(夕刻おやつ含む)
土曜日・代休 長期休業日	①7:30～18:00 (認定の範囲で利用可能) 認定のない方は9:00～17:00 半日7:30～12:00 土曜は18:00で終了	①1日2,500円(おやつ給食含む)  半日2,000円(おやつ給食なし)
特別認定児のみ	②7:30～19:30	②1日3,000円
夏季休業日一括	①7:30～18:00	①一括50,000円(おやつ給食含む)
特別認定児のみ	②7:30～19:30	②一括60,000円(おやつ給食含む)

表4. 特別預かり保育認定基準（平成30年度以降は会員認定基準）

事 由	定 義	証 明 書 類
居宅外就労	1日につき概ね4時間以上、月12日以上居宅外において労働をすることを常態としていること	就労証明書（園指定様式）
居宅内就労	1日につき概ね4時間以上、月12日以上居宅内において家事以外の労働をすることを常態としていること	就労証明書（園指定様式）
産前産後	出産予定日の8週間前（多胎妊娠の場合は14週間前）の日から出産後8週間を経過する日までの期間内にあること	母子手帳または出産（予定）証明書（写し）
親族介護	1日につき概ね4時間以上同居の親族その他のものを介護することを常態としていること	診断書、介護保険にかかる要介護・要支援認定書、身体障害者手帳、愛護手帳、精神障害者保健福祉手帳（またはそれらの写し）
災害復旧	自宅及びその近隣地域内の災害の復旧にあたっていること	罹災証明書（または写し）
就 学	1日につき概ね4時間以上職業能力開発施設において職業訓練を受けていること。または、大学、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校、各種学校において就学することを常態としていること	学校長の就学証明書
その他	保護者から申し出があり、園長が必要と認めた者	園指定の書類

### 3. 「預かり保育」実施園への訪問調査

#### (1) 宮崎台幼稚園を訪問して

学校法人田園学園「宮崎台幼稚園」は、神奈川県川崎市に位置する園児数440名以上の大規模園である。「預かり保育」は「ひまわりクラブ」という名称で、「月極め」と「日割り」の2種類が用意されている。「預かり保育」担当教諭（パートタイマー）5名によるシフトで運営されており、3名体制で保育を行っている。保育時間と利用者は、早朝（7:30～8:30）15名程度、午後（14:00～18:30）30名程度。長期休業期間も保育を行っているが、土曜日、園の行事（入園式・卒園式など）、引き取り訓練、お盆・年末年始は休み。本園の「預かり保育」一日の流れは表5に示す通りであり、梶山幼稚園と同様であった。

表5. 宮崎台幼稚園「預かり保育」の一日の流れ

開始時間	活用内容（使用場所）
14：00	コスモス組へ移動→人数確認
15：00	おやつ（市販品・生協品）
15：30	園庭遊び
16：30	室内で好きな遊び（おもまごと・ブロック・塗り絵、パズル、折り紙等）
18：30	預かり保育終了

「預かり保育」利用園児の受け入れにあたっては、園児一人ひとりの育ちの状況を見て、その子にあったタイミング（預かり保育に適応できる体力、生活習慣、園生活への慣れなど）であるか否かによって、受諾を判断しているとのことであった。このことに関しては園長が、園見学時や入園説明会で何度も念入りに説明し、保護者の承諾を得ているそうである。「預かり保育」としての特段のカリキュラムや防災訓練は設けられていなかった。

## (2) 日本女子体育大学附属みどり幼稚園保育室を訪問して

学校法人二階堂学園日本女子体育大学附属みどり幼稚園は、東京都世田谷区に位置する園児数280名の幼稚園であり、同じ敷地内に保育室（無認可）と高等学校がある。待機児童の多い東京都では、その対策として「預かり保育」に補助金が出されていることから、補助金有りクラス（45名の定員制）と無しクラスがあり1年間固定。両親就労家庭であっても、預かり保育料には差が生じている。それは、本当に「預かり保育」を必要としている保護者を第一優先としたいとの考えからであった。補助金有りクラスの保育料金は、1ヶ月17,000円。補助金無しクラスでは、1ヶ月32,000円。日割りの場合は、30分毎に200円の料金が加算されていく。

保育時間は早朝（7:30～9:00）と午後（14:30～18:30）。長期休業期間も行っている。土曜日、入園式・卒園式、園の行事、園児引き渡し訓練、お盆・年末年始は休み。「預かり保育」担当教諭4名（専任1名・パートタイマー3名）と日本女子体育大学の学生バイト2名の計6名で運営されている。本園の「預かり保育」一日の流れは、表6に示す通りである。両親就労家庭であっても、本園が幼稚園である以上はPTA活動に参加すべきであることを、園として強調しているそうである。尚、「預かり保育」としての特段のカリキュラムや防災訓練は設けられていなかった。

表6. みどり幼稚園「預かり保育」の一日の流れ

開始時間	活用内容（使用場所）
14:00	それぞれの保育室へ移動→排泄・人数確認・視診・検温→午睡（年長児は運動会明けまで）
15:15	目覚め→布団片付け→排泄→おやつ
16:00	園庭遊び
17:00	室内で好きな遊び（おもちゃ・ブロック・塗り絵、パズル、折り紙等）→DVD鑑賞
18:30	預かり保育終了

## (3) 調査のまとめ

- ・宮崎台幼稚園とみどり幼稚園の「預かり保育」一日の流れ並びに基本的なねらいは、椋山当園と同様であった。梶島他（2016）が報告している埼玉県内の私立幼稚園においても同様の結果がみられ、「預かり保育」一日の流れ並びに基本的なねらいについての共通性は高いように思われる。
- ・宮崎台幼稚園と椋山当園との違いとしては、宮崎台幼稚園はあくまでも園児中心の

「預かり保育」を展開している点であった。個々の園児の状態を見て、預かり保育時間や開始時期を決定していて、園児を把握していない段階での無理な長時間保育はありえないという考え方であった。

- ・みどり幼稚園と相山当園との違いとしては、両親就労の園児を優先し、定員を定めることで保育場所の確保と保育環境の充実が目指されている点であった。定員制には利点が多いようであり、参考としたい。
- ・両園ともに、専用の年間カリキュラムやエピペン講習・AED講習・不審者侵入防止訓練等は特段用意されておらず、当園との比較検討ができず、残念であった。

#### 4. 相山幼稚園における「預かり保育」担当教諭へのヒアリング調査

平成28（2016）年に在職していた「預かり保育」担当教諭（パートタイマー）10名を対象に、個別にヒアリング調査を行った。その結果を「安全や情緒の安定への配慮」「環境構成への配慮」「利用園児数の増加にかかわる配慮」「運営上の課題」の4項目にまとめた。急増した「預かり保育」利用園児を前に、日々奮闘している担当教諭たちの声を真摯に受け止め、改善の方向を検討していきたい。

##### (1) 安全や情緒の安定への配慮について

利用園児が安全に、体力的にも精神的にも無理なく自分のペースで過ごせるように配慮したいと考えている。例えば、受け入れ時には、表情や体調についてしっかり視診するようにし、怪我をさせないようにすることを最優先にしている。しかしながら、クラス担任教諭からの情報提供（今日〇〇で怪我をした、保育中元気がなかったなど）が不足しがちで、情報共有ができないために園児や保護者への対応に窮することがある。緊急事態への対応として、「預かり保育」独自の訓練を定期的に取り入れ、アナフィラキシーの対応でエピペンが処方されている園児、地震や火災、不審者の侵入に適切に備えたい。とは言っても、長期休業期間や夕刻遅い時間は担当者数が少なく、不安を感じる。

##### (2) 環境構成への配慮について

環境は意図的にあまり変えることをせず、利用園児が以前に利用した時のイメージで入室できるように配慮している。毎日来る園児には前日の遊びを思い出しやすくし、時々や初めて来る園児に対しては入室しやすいように、おもちゃの配置や種類を短期間で変えないようにしている。利用園児が自分のやりたい遊びが思う存分できるように、じっくり遊ぶコーナーと動きのあるコーナー（ホール・わくわくネット・戸外・屋上）を設定している。その一方で、異年齢保育による体力差や興味の違い、メンバーが固定されないことによる遊びの不連続性等から、保育内容の即時変更を見通した環境構成づくりも、常に意識しておくことが必要である。

##### (3) 利用園児数の増加にかかわる配慮

利用園児数が多いことによって、新たな人間関係や異年齢間の交流が生まれてい

る。しかしながら、やはり園児数が多いために、何処で誰が何をしているか、まんべんなく目を届かせるよう心掛けてはいるが、なかなか難しい現状である。大人の手を求めている園児に適切な対応ができているのか、本当に保育を必要としている園児や保護者に、十分な保育や支援ができているのか、疑問に感じる日々である。年長児が年少児にぶつかるなど、安全面での問題も顕在化してきた。

#### (4) 運営上の課題

①「預かり保育」担当教諭の確保について：利用園児の急増により、担当教諭数の不足分を学生アルバイトで補っている状況である。早朝保育にはクラス担任教諭にも入ってもらっているが、午後の方が100名を超える園児が利用することもしばしばで、まったく手が足りない。早急な担当者の補充を願いたい、昨今の保育者不足と、朝早く夕刻遅い働きづらさから困難であることは容易に理解できる。悩ましい課題である。

② 保護者への対応について：早朝や夕刻遅くまで「預かり保育」を利用している園児や保護者にとっては、「預かり保育」担当教諭の方がクラス担任教諭よりも、会って話をする機会の多い相手となる。また、怪我やクラスでのトラブルについての保護者連絡を、「預かり保育」担当教諭が肩代わりする場合もある。保護者との意思疎通がはかれているのか不安である。保護者とクラス担任教諭とのコミュニケーションの低下を招いているのではないかと、心配している。

両親就労家庭の増加により、園児の急な発熱や怪我等の場合にすぐに迎えに来ることができない保護者が増えた。長時間園で待ち続ける園児がかわいそうになる時もある。両親就労の場合には、緊急時のバックアップ体制を充分にとってもらうように、幼稚園として強く保護者に要望してほしい。災害時の引き渡し訓練においても、緊迫感が感じられない。次年度からは、最低でも年に一度は全園児を対象に一斉引き渡し訓練を実施し、訓練終了後に当日の預かりがどうしても必要な園児のみ受け入れる、という訓練方法を提案したい。

③ 園児への配慮について：4月の年少児の受け入れには特段の配慮が必要である。仲の良い友達がいつも来るわけではないので、友達関係の構築が必要になる。また、「預かり保育」利用園児の中には、親の都合で毎日預けられている者もいる。そのような場合は、解決すべき問題点がどこにあるのかを保護者と話し合う必要があろう。何より、園児の心のケアが重要である。

④ 保育場所について：新園舎になって、保育場所としてランチルームと多目的室を使用しているが、利用園児の急増にともない、おやつの中には年少保育室を借りなければならない状況である。また、午後からの園行事等によるランチルームや多目的室の使用で、年少保育室で「預かり保育」を実施することもあるが、いつもと違う動線のために園児は戸惑い、保護者の迎えにも混乱を招いている。「預かり保育」専用の保育場所がほしい。

## 5. 梶山幼稚園における「預かり保育」利用保護者へのアンケート調査

梶山幼稚園在園中の園児254名（年長87名：年中87名：年少80名）の保護者を対象に、平成28年9月に「預かり保育利用状況」「利用時間帯と満足度」「保育の満足度」「保育料金の満足度」等についてアンケート調査を実施した。調査を通して、以下のような預かり保育に対する保護者の実態を捉えることができた。

- ・**預かり保育利用状況について**（図3参照）：全園児の9割近くの園児が利用経験を有している。その内ほぼ毎日利用している園児は3分の1程度である。
- ・**利用時間帯と満足度について**：利用時間帯は保育後3時間以内が最多（50.0%）で、この時間帯に集中することから、初めて利用した園児の中には人数の多さに圧倒され、なかなか遊びに入り込めない状況がある。利用時間についての満足度は高い。
- ・**保育の満足度について**：保育の満足度は非常に高く（92.3%）、特に両親就労家庭からは高い満足度に加え、「預かり保育」に対する感謝の言葉が多数寄せられている。
- ・**保育料金の満足度について**：料金に対しての満足度は高かった（60.3%）。その上での要望として、保育後3時間800円の一律料金について、短時間での迎えが可能な場合もあることから、30分単位など時間を刻んだ料金設定の検討が求められていた。
- ・**その他の要望や苦情について**：利用園児の増加傾向（本年100名を超える日が複数発生）と一定時間帯への利用状況の集中から、子どもの心身の安心感・安全性を危ぶむ声が寄せられた。人数制限や安心・安全な場所の確保が強く求められている。定員制の導入など、利用者数の制限を中心とした保育環境の整備が急務である。また両親就労家庭から、連絡アプリの毎月登録の不便さと年間登録制（会員制）を望む声が寄せられている。

以上の結果から、利用園児の心身の安心・安全性を保障するために、定員制や会員

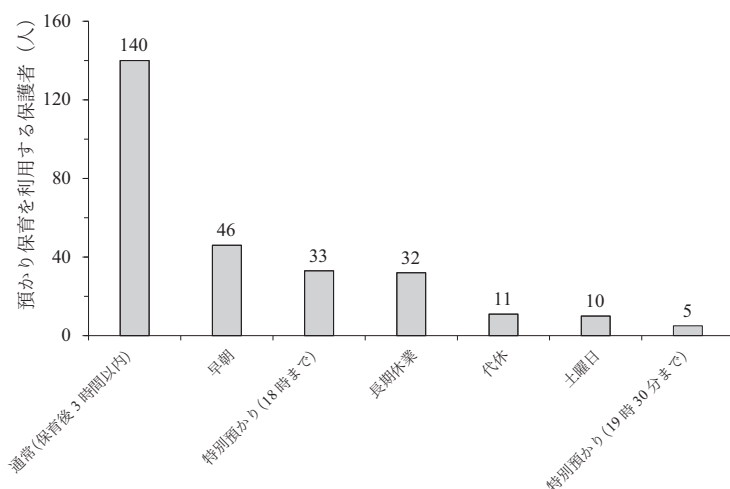


図3. 梶山女学園大学附属幼稚園における「預かり保育」の利用時間帯別の年間利用保護者数（複数回答）

制を基軸とした制度改革と保育場所の確保を検討しなければならないことを、再確認した。毎日「預かり保育」を必要とする園児に、さらにしっかりと目を向けていく必要性を痛感した。

## 6. 梶山女学園大学附属幼稚園における預かり保育の今後の展開

今回、梶山幼稚園の「預かり保育」の実施状況を他園との比較も含め多面的に見つめ直すことで、その成果と課題が浮かび上がってきた。梶山幼稚園では、保護者の保育ニーズに応じて、預かり時間は早朝7:30～夕刻19:30までの12時間が保障されている。他園にはない室内型遊具「わくわくネット」に象徴される充実した園環境の中で、幼稚園教育要領（2008）で求められている留意事項に沿って、「預かり保育」担当者の細やかな配慮による保育が実践されている。その成果は、在席園児の9割にのぼる利用経験と、保護者の満足度の高さとして表出されている。しかしながら、「預かり保育」担当者並びに利用園児の保護者も指摘しているように、「預かり保育」利用園児数の急増が、「安心・安全で楽しい保育」を脅かす事態を招いている。「預かり保育」に使用できる場所に限りがある以上、利用園児数の適正化を図ることは早急に解決しなければならない課題である。

そこで、筆者3名を中心に立案し、梶山女学園事務局とも検討を重ねた結果、表7に示す「平成30年度『預かり保育』の種類と金額（案）」を作成した。最大のポイントは、会員制の導入である。それにより、メンバーの固定化が一定可能となり、会員園児（利用園児数によっては予め時間帯で分割）と当日のみ利用のスポット園児との部屋を分ける「ゆるやかなクラス制」を取ることができ、利用園児の掌握が格段に容易となる。その結果、それぞれの時間帯の園児に、落ち着いた雰囲気の中で安全に遊べる保育環境が提供できるものと考えている。クラス編成の工夫によっては、1学期中の年少児の午睡を保障することもでき、保育園生活からの移行にも柔軟に対応できる。これらは、文部科学省（2008）が「預かり保育」実施にあたって最も強調している「幼児の心身の負担への配慮」を、制度面から実現するものである。また、利用園児の保護者においては、利用時間帯や迎える場所（クラス）等がより明確になり、迎える保護者が変更になった場合でもスムーズな受け渡しが可能となる。料金設定も従来の複雑な選択制からシンプルなものとなり、利便性が高まるものと考えている。

今後も「預かり保育」の需要は増大していくものと推察される。社会のニーズに応え、園児の健やかな成長を支える幼稚園としてあるためには、幼稚園生活における「預かり保育」の位置づけと内容の充実は欠かせない条件となるであろう。どのような「預かり保育」の在り方が、その教育的効果を高めることに寄与できるのか。今後も幼児の発達特性を踏まえ、検討していきたい。その一つの提案として、平成30年度の「預かり保育」年間カリキュラムも（表8参照）合わせ掲載した。大方のご意見・ご指導を仰ぎたい。

表7. 平成30年度「預かり保育」の種類と金額（案）

会員預かりの種類	時間	金額
平日 ①月極会員	7:30～17:00 まで	①月額 12,500円（保育料11,000円，おやつ代1,500円）＊名古屋市に住民票がある方は補助金2,000円減免で10,500円徴収
②月極会員18時	7:30～18:00 まで	②月額 14,000円（保育料12,500円，おやつ代1,500円）＊名古屋市に住民票がある方は補助金2,000円減免で 12,000円徴収
③長時間会員	7:30～19:30 まで	③月額 22,000円（保育料19,200円，おやつ代2,800円）＊名古屋市に住民票がある方は補助金2,000円減免で20,000円徴収
土曜日（18時終了）	7:30～18:00	1日 2,500円（おやつ，給食含む）
代休・長期休業日割り	7:30～19:30	1日 3,000円（おやつ，給食含む）
夏期休業一括	7:30～18:00 7:30～19:30	一括 50,000円（おやつ，給食含む） 一括 60,000円（おやつ，給食含む）
延長料金	①17:00～18:00 ②18:00～19:30	30分150円 30分200円
スポット預かりの種類	時間	金額
日割（会員以外）	7:30～9:00及び保育終了後から19時30分まで	（早朝・午後共）1時間毎300円
給食なし（始業式・終業式等）	保育終了～17時まで	1時間300円プラス給食費380円

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり，田園学園宮崎台幼稚園中村達也園長先生はじめ諸先生，日本女子体育大学附属みどり幼稚園松原好子園長先生はじめ諸先生には，ご多忙中の訪問見学をご快諾いただきました上に，「預かり保育」に関する貴重な情報をご提供いただきました。ここに感謝の意を表します。また本研究には，平成28年度椋山女学園研究費助成金(B)の交付を受けました。ご援助いただきました椋山女学園に感謝いたします。

## ■引用文献

- 梶島香代・岩野芽衣花・小出美緒・安達祐亮（2016）幼稚園における「預かり保育」の実態—事例研究を通して—，文京学院大学人間学部紀要，Vol. 17：13-20.
- 学校法人椋山女学園（2007）椋山女学園百年史，椋山女学園百年史編集委員会，大日本印刷.
- 厚生労働省（2017）「子育て安心プラン」について.
- 文部科学省（2000）幼稚園教育要領解説，フレーベル館.
- 文部科学省（2006）預かり保育について，中央教育審議会初等中等分科会教育課程部会第46回配布資料.
- 文部科学省大臣官房政策課評価室（2008）重要対策分野に関する評価書—少子化社会対策に関連する子育て支援サービス—.

文部科学省（2008）幼稚園教育要領解説，フレーベル館。

文部科学省（2017）幼稚園教育要領（告示）。

文部科学省初等中等教育局幼児教育課（2017）平成28年度幼児教育実態調査。

椋山女学園大学附属幼稚園（2017）椋山幼稚園の教育。

表 8. 平成30年度「預かり保育」年間指導計画（案）

	3 歳児	4 歳児	5 歳児
年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に慣れ，安心して過ごせるようにする。</li> <li>・友達との関わりを広げ，存分に遊びを楽しむ。</li> <li>・生活の中で必要とする言葉を知り，身近な人との言葉のやり取りを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に慣れ，喜んでいろいろな活動に取り組み，日常生活に必要な習慣や，態度を身に付ける。</li> <li>・遊びの経験を広げ，いろいろな方法で表現する。</li> <li>・多種多様な経験を通して，生活に必要な言葉を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を楽しみながら，主体的に活動する態度を身に付ける。</li> <li>・友達や異年齢児との関わりの中で，思いやりの心が育ち，協力する態度を身に付ける。</li> <li>・教師や仲間とのかかわりの中で，相手の話をよく聞き，意見交換をする力をつける。</li> </ul>
	1 期（4 月～8 月）全学年	2 期（9 月～12 月）全学年	3 期（1 月～3 月）全学年
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や友達と一緒に遊び，園生活に親しみを持とうとする。</li> <li>・自分で好きな遊びを見つけたり，異年齢児で関わり合いながら製作を楽しんだりする。</li> <li>・友達の遊びに興味を持ち，一緒に過ごすことや遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・友達とイメージを膨らませながら，ふれあって遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・異年齢児で関わりながら，遊び方や気づきを伝え合って楽しむ。</li> <li>・興味のある玩具や遊具で好きな遊びを楽しむことを喜ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力し，一緒に体を使って遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・友達と考え合ったり協力したりして，一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・友達と，秋の自然に親しみながら遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・友達と一緒に作ったり，作ったもので遊んだりしようとする。</li> <li>・異年齢児同士のあこがれや認め合う気持ちを大切に，素材を使って遊びを楽しむ。</li> <li>・友達と話し合ったり協力したりして遊びを進め，関わりを深めていくことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の友達と思いや考えを伝え合いながら遊びを進めようとする。</li> <li>・異年齢児で正月の遊びやルールのある遊びを友達と工夫したり進めたりして楽しむ。</li> <li>・思いやりやいたわりを大切にして異年齢児が誘い合って生活を進めようとする。</li> <li>・友達と考えを出し合って遊ぶおもしろさを楽しむ。</li> <li>・異年齢児と一緒に，感じたことやイメージを広げて遊ぶことを存分に楽しむ。</li> <li>・生活や遊びの中で友達との関わりを深め，互いの存在を大切にする気持ちを持つ。</li> <li>・異年齢の友達と親しみを持って関わり，園生活の充実を図る。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている事や気づいたことを話し，会話を楽しむ。</li> <li>・遊びを伝え合ったり，教え合ったりしながら，友達との関わりを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に好きな遊びを楽しむ，安心して過ごす。</li> <li>・友達と遊びを教え合いながら楽しむ。</li> <li>・異年齢児を誘い，一緒に動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と自分のイメージを合わせながら，言葉のやりとりや体の動きで表現して楽しむ。</li> <li>・異年齢児で誘い合って縄跳</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったことや考えたことを伝え合う喜びを味わう。</li> <li>・自分の話を聞いてもらったり、友達の話の聞いたりすることを喜ぶ。</li> <li>・友達とイメージを合わせて遊ぶ楽しさを味わう。</li> </ul>	<p>きのある遊びのおもしろさを分かり合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と教え合ったり、互いのがんばりを認めたり、協力したりして遊びを進める。</li> <li>・ルールのある遊びや伝承遊びを異年齢児同士で進める。</li> <li>・遊びのルールについて話し合い、友達と協力して遊びを進める。</li> </ul>	<p>びやルールのある遊びを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3, 4歳児が興味を持っている5歳児の遊びと一緒に楽しむ。</li> <li>・鬼ごっこ、ドッジボールなどをして楽しみながら自然な関わりを深められるようにする。</li> <li>・子どもが相談や工夫をしながら異年齢の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の流れや身の周りの始末の仕方を身に付ける。</li> <li>・持ち物の準備や後始末が自分でできるよう、備品やオモチャの配置、片づけ場所を明確にしておく。</li> <li>・安全に過ごせるよう園内、園外での活動を想定し、適宜、適時に対応する。</li> <li>・子どもの要求を考慮し、興味を持った玩具や教材を準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ままごとや絵を描くコーナーなど、いつでも好きな遊びを楽しめるよう環境を整える。</li> <li>・一人一人の興味に応じて、活動への意欲がわくよう、いろいろな素材や用具、玩具を十分に準備する。</li> <li>・異年齢で、ボールを転がしたり、投げたりして、体を動かすおもしろさを味わいながら、友達を増やして、ゲーム遊びへと発展させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣において、一人一人の状態を見直す。</li> <li>・友達と一緒に遊びを楽しむよう、教材や用具の数を十分に検討する。</li> <li>・目標に向かって取り組めるよう言葉かけを十分に言い、自ら取り組めるよう遊具や用具を準備する。</li> <li>・5歳児の取り組んでいる遊びにあこがれを持って見てきた3, 4歳児と一緒に遊べる機会をつくる。</li> </ul>
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日同じ流れ、同じ方法で繰り返し知らせることで、生活の流れや身の周りの始末の仕方が身に付くようにする。</li> <li>・身の周りのことをなるべく自分の力でできるよう、一人一人の心身の状態にあった援助をする。</li> <li>・自ら遊びや活動に取り組めるよう、興味・関心に応じて環境を構成し、一人一人の遊びや興味の変化を把握して環境を再構成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や遊びの中で、順番待ちや貸し借りの仕方を考える。</li> <li>・繰り返しルールを伝えることで、実体験を通して身に付くようにする。</li> <li>・子どもたちの興味・関心があるものを把握し、意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・友達と協力し、一緒に活動する楽しさが味わえるよう、交流の場をつくる。</li> <li>・読み聞かせをする際には、ある一定の時間集中できるよう周りの環境に配慮し、子どもたちの興味を引く読み方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれに合った援助をしながら、自分でできる喜びを感じられるような言葉掛けをする。</li> <li>・遊びの中で物を一緒に使ったり、力を合わせて物を作ったりしながら、友達との関わりを深められるように、教師が間に入ったり、そばで見守る。</li> <li>・子どもたちが1年間一緒に遊んだことを思いかえして、異年齢児に親しみの気持ちや感謝の気持ちが深まっていく姿を見守っていく。</li> </ul>